

～高校生の私から、大学生の私に繋いだ「龍門の禪」～

手賀遥奏（76期 東洋大学法学部 企業法学科2年）

まずは、このような貴重な機会を与えていただいた皆様に心より御礼申し上げます。さて、私は2023年に加治木高校生として、2024年には高校生をサポートする側として龍門の禪に参加させていただきました。この二つの視点で関わったからこそ私が感じたこと、考えたことは今の自分に大きな学びと力を与えています。

関東での進路を志した当時の私にとって、大学や企業、省庁を実際に訪問できるこの取り組みには大きな期待がありました。特に実感した大きな成果といえば、間違いなく「解像度」です。以前から関東の大学に進学したいという思いはありましたが、どうしても鹿児島から得られる情報には限りがあるため、どことなくふわっとした構想に留まっていたことを思い出します。しかしこの龍門の禪で、数少ない実際に関東で活躍される先輩方の言葉を受け取ったことで将来への解像度が格段に高まりました。一層受験への決意が固まるきっかけとなり、私は無事東京への進学を果たしました。

あの時に得た恩恵はそれだけではありません。「東京への進路をとっても私は一人ではない」という考えを持てたことは、見知らぬ土地に一人飛び出した私にとって大きすぎる支えになりました。親身に相談に乗ってくださる方ばかりで、私は今でも目の前が曇った時に相談に乗っていただいています。このような、継続的に相談できる人間関係を在学中から築けるとするのは龍門の禪という取り組みの重大な意義であると考えます。

そんな特別な価値を提供いただけたからこそ、自分自身も後輩たちにとって少しでも与えられる人になれば、と思うようになり、一年越しにサポートする側として参加させていただくこととなります。

立場が変わることで、また一年前とは大きく異なる考えを抱くようになりました。基本的に龍門の禪に参加する高校生は関東への進路を想定している人がほとんどだと思いますが、そうではない人も参加してみる価値があるのではないかと。そう考えるようになったのです。

私は参加者側として出会った方々から感銘を受け、その当時自分では想像もできなかった選択肢をいくつも選んできました。その選択ができたのは、実際に自身の目を見て、言葉を受け取ったからに他なりません。当たり前ではありますが、自分が知らない選択肢は選択することはできません。そう考えると、まだ県外、九州から出るビジョンを持っていない人で

も参加する意味は大いにあります。百聞は一見にしかず。一度視野を広げてみることは、人生の幅を大きく広げるきっかけになると私は考えます。

これからも偉大な先輩方の、そして私の釋がたくさんのかち木高校生に繋がり、新たな道を切り拓いてくれる事を願っています。